

川口市

事業名「^{サンキュー}39 (Thank you) ヘルスチェック」

(1) 川口市の概要

(ア) 川口市の基本情報

川口市は埼玉県の南端に位置する県内有数の都市である。荒川を隔てて東京都に接し、江戸時代から鋳物や植木などの産業が発展。その後、住宅都市化が進んだ。平成23年10月11日、鳩ヶ谷市と合併し、人口約58万人となり、首都東京と隣接しているという利便性を活かしながら、固有の伝統ある“ものづくりのまち”として、活力あるまちづくり・人づくりを目指している。

①	面積	61.97 km ²
②	人口	579,021 人
③	②のうち65歳以上人口（再掲） ※【 】内は高齢化率	110,554 人 【 19.1% 】

(平成24年1月1日現在。町(丁)字別人口調査)

(イ) 人口分布概要と見込み

川口市では、今後も急速に高齢化が進展すると予想される。

表1 高齢化の推移と将来推計人口

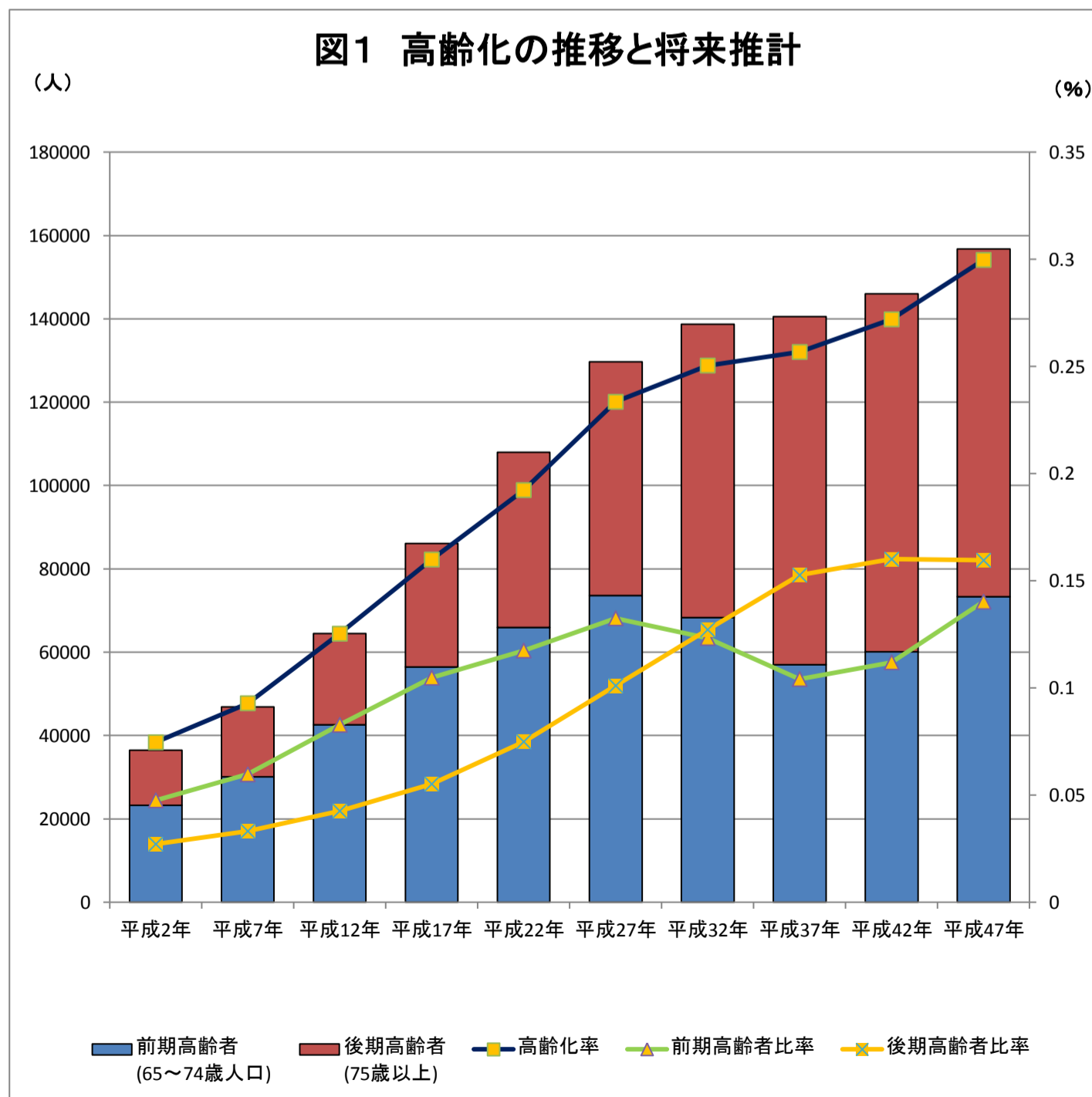
(人)

年	国勢調査人口					将来推計人口				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総人口	489,205	504,618	514,545	538,434	561,506	555,480	553,850	547,387	536,963	523,187
前期高齢者 (65～74歳人口)	23,246	30,111	42,574	56,406	65,940	73,588	68,284	57,013	60,110	73,352
後期高齢者 (75歳以上)	13,249	16,721	21,887	29,682	42,037	56,116	70,416	83,534	85,941	83,457
高齢化率	7.5%	9.3%	12.5%	16.0%	19.2%	23.3%	25.0%	25.7%	27.2%	30.0%
前期高齢者比率	4.8%	6.0%	8.3%	10.5%	11.7%	13.2%	12.3%	10.4%	11.2%	14.0%
後期高齢者比率	2.7%	3.3%	4.3%	5.5%	7.5%	10.1%	12.7%	15.3%	16.0%	16.0%

平成22年までは、国勢調査人口

平成27年以降は、『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計)(H17国勢調査から推計)

図1 高齢化の推移と将来推計



(2) 川口市の取組

(ア) 取組の契機

平成20年度から特定健診・特定保健指導が開始され、40歳以上の健康チェックの機会は法に基づき実施されている。しかし、基本健康診査の時代から、男性の2人に1人は腹囲が90cm以上、男女を合わせると受診者の19.4%（約5人に1人）が腹囲該当など、40歳代前半ですでにメタボリック症候群および予備群であったり、検査でなんらかの異常値を示すものが多くみられていた（表1、図1）。生活習慣病予防への取り組みは40歳以前から必要であり、健診が受けられない39歳以下の若い世代を対象に、簡単な健康チェックと相談を行うことで、自分自身の健康管理に役立つ相談を実施することとなった。

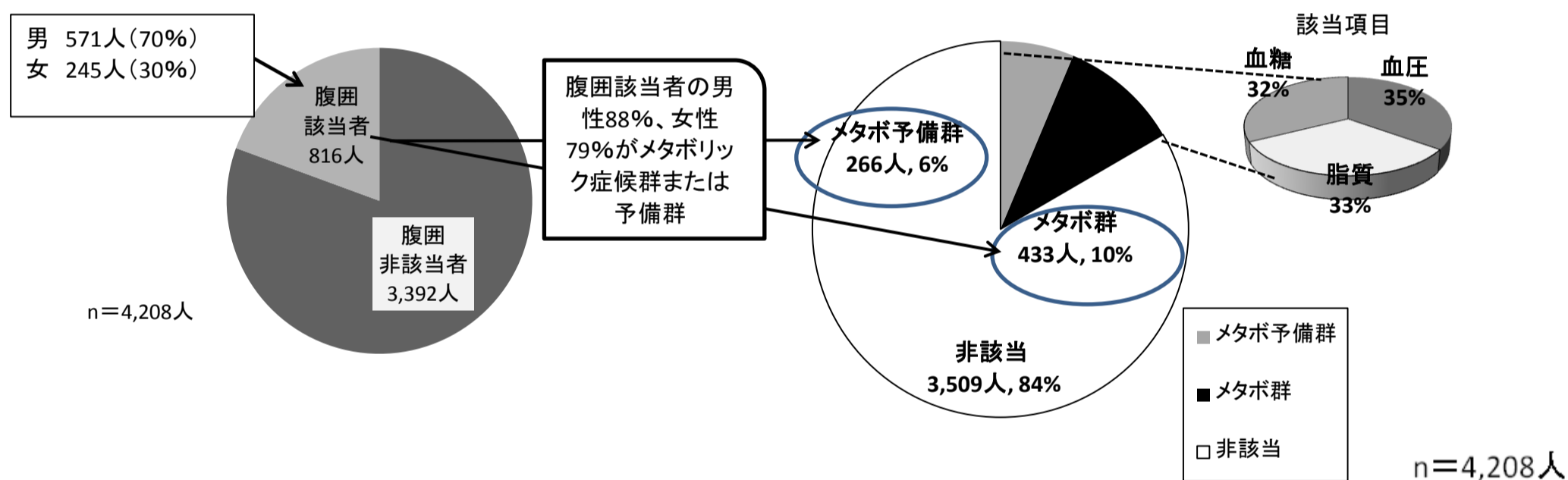
表1 平成19年度基本健康診査 40～45歳受診者の内訳

	受診数	BMI25以上	腹囲該当者	腹囲該当者のうち			予備群 該当1つ	メタボリック症候群	
				血圧収縮期 130又は拡張期85以上	HDL40以下 又は中性脂肪150以上	HbA1c5.2又は空腹時血糖100以上		該当2つ	該当3つ
男性	1,217	490	571	314	340	290	184	203	118
女性	2,991	501	245	134	81	126	82	77	35
合計	4,208	991	816	448	421	416	266	433	
							699		

※ 腹囲該当者： 男性85cm以上 女性90cm以上

※ 単位： 血圧 mmHg HDL・中性脂肪 mg/dl HbA1c % 空腹時血糖 mg/dl

図1 肥満の割合



(イ)取組の内容

事業名	サンキュー 39ヘルスチェック
事業開始	平成20年度

	平成24年度	平成23年度
予算	47万円 報償費(歯科衛生士、託児協力者) 19万円 消耗品費 5万円 医薬材料費 23万円	46万円 報償費(歯科衛生士、託児協力者) 18万円 消耗品費 5万円 医薬材料費 23万円
参加人数	97人(3回分)	208人
実施回数	7回	7回

① 内容

検尿、RDテスト(むし歯菌テスト)、測定(血圧・身長・体重・体脂肪率・腹囲径・骨密度)、簡易血糖検査、個別健康相談(健康、栄養、歯科)。

② 募集方法など

広報・ホームページ・ちらしにて募集。定員は毎回50名程度(先着順・年度1回)。申込者には事前に問診票・尿検査キット・歯科用アンケートを郵送。

③ スタッフ

保健師、栄養士、歯科衛生士、看護師、託児ボランティア、事務。

④ 会場

保健センターと市内6カ所の公民館を使用し、市民の利便性を考慮した。

(ウ) 取組の効果

① 実施結果

参加者は毎年200名前後で、30歳代の参加が80%以上である。男性の参加が10~15%あった(表2、図2)。

検査結果については、どの項目においても正常範囲に該当する人が多かった。

平成23年度の結果を見ると、メタボリック症候群および予備群については、特に男性に多く、腹囲85cm以上の男性は11人で、参加男性の35%を占めていた(表3)。

図2 男女の参加人数

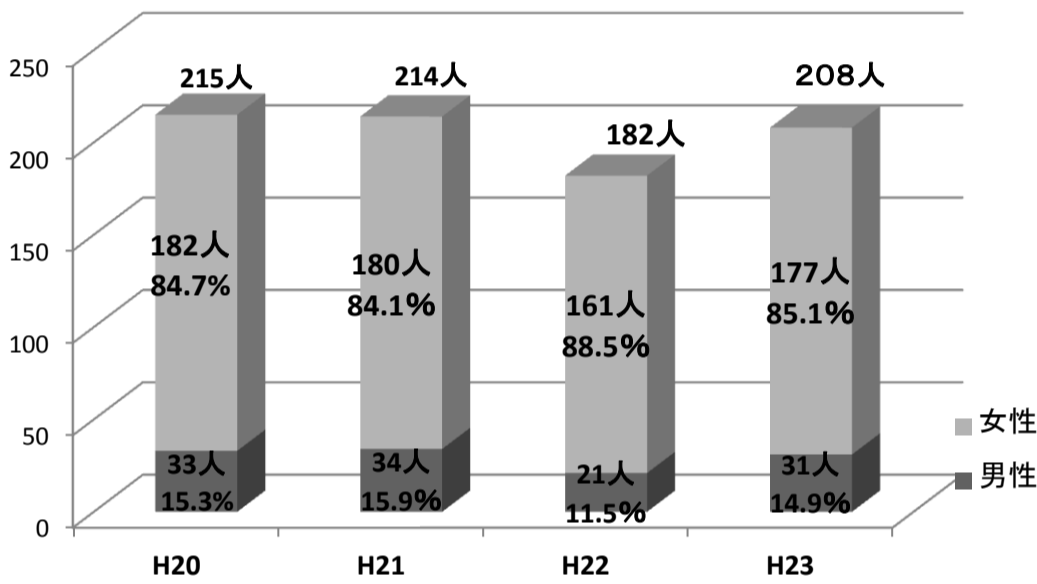


表2 年代別参加人数

年度	H20	H21	H22	H23
10代	0	0	0	1
20代	22	33	33	24
30代	193	169	133	167
妊産婦	0	12	16	16
合計	215	214	182	208

表3 23年度 参加者結果

	腹囲該当	体脂肪該当	BMI25以上	空腹時血糖100以上	収縮期血圧130以上	拡張期血圧85以上
男	31	11	8	25	62	22
女	177	13	13			

② アンケート結果からみた効果

参加後の意識変化をアンケートから見ると、「今後の取組方がわかった」「生活習慣の見直しができた」

「健康状態を知ることができた」を合わせると95%以上であった(図4)。また事業の満足度は高く「満足」「まあまあ満足」を合わせると94%であった(図5)。

図4 どのような参考になりましたか

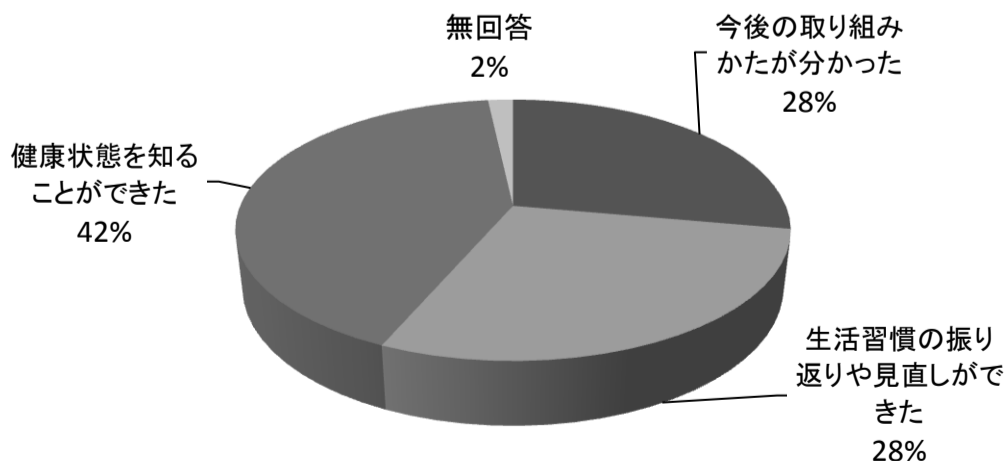
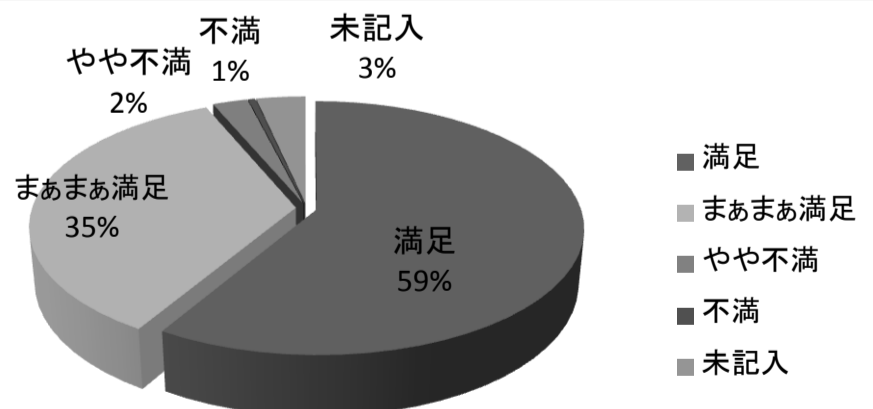


図5 23年度の事業の満足度



(エ) 創意工夫した点

① 子供同伴の参加者への対応

参加者の中には小さい子供のいる母親も多いため、託児担当としてボランティアに協力いただいている。また、会場をベビーカーで移動できるようレイアウトや各測定・検査のセッティングを工夫している。

② 専門的な相談体制

参加者への個別相談として、保健師・栄養士・歯科衛生士が、より専門的な内容の相談を実施している。特に歯科については、RDテスト・アンケートを実施し、個別相談につなげていくことで、歯周病予防に力を入れている。

(オ) 課題、今後の取組

① 検査項目の充実

毎回、参加者から「もう少し検査項目を増やしてほしい」との声が多く聞かれ、参加者の健康に対する意識は高い。早期からの生活習慣病予防、メタボリック症候群予防の観点からも脂質など検査項目の追加について検討していく。

② 男性の参加

男性参加者のメタボリック症候群率が高いことから、この年代の男性への対応が重要であると感じられた。参加者のうち、80%以上は女性だが、自営業やフリーター、無職など健診を受ける機会の少ない男性に対するアプローチも検討していく。